



SDGsアイデアコンテスト受賞者と豊島区子ども未来国連会議優秀賞の皆さん

特集・わたしたちが描く としまの未来図

CONTENTS

やさしいつながりを感じられるまちへ…………… P4・5
 社会とつながってSTOP! フレイル…………… P7

手洗いの徹底、症状がある場合は自宅待機するなど、基本的な感染症対策をお願いします。距離が確保できない会話や通勤ラッシュ時などではマスクの着用を心がけましょう。なお、体調や心身の状況などによっては、マスクの着用が難しい方や控える方がいます。ご理解のほどお願いします。



わたしたちが描く としまの未来図

区立小・中学校では「SDGs達成の担い手育成事業」を実施しています。今回は、日頃からSDGsを学んできた小学生が豊島区の未来を語り合った「豊島区こども未来国連会議」の様子を紹介します。
 図SDGs未来都市推進課SDGs未来都市推進グループ☎4566-2520

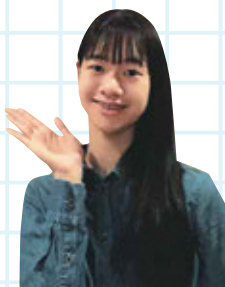
「SDGs達成の担い手育成事業」
 区立小・中学校全校で、地域・企業・大学などの協働による取組みを推進し、SDGs達成の担い手を地域の中で育成。子どもたちは地球規模のSDGsを自分ごととして捉え、行動にうつしています。

豊島区こども未来国連会議をのぞいてみよう!

今年9月、区内小学校高学年の子どもたち約50名が集まり、「住み続けられる未来の豊島区」をチームで考え、本会議場で発表しました。当日の様子をCチームに密着してお届けします!

私が当日の様子についてレポートします!

「豊島区こども未来国連会議」
 Cチームサポーター 久米川 夏穂さん
 (早稲田大学本庄高等学院2年)



Step 1 ワークショップ



1 アイデア出し

4~5人ずつ10チームに分かれてアイデアを出し合いました。初対面で最初は緊張している様子でしたが、「観光地がない」「ごみ問題」など、徐々に意見が出るように!ほかのチームからも、「公園や緑が少ない」など、子どもたちの目線とらえた豊島区の課題が出ました。



2 グループ分け・図解化

アイデアごとに意味が近いものをグループ分けした結果、Cチームのテーマは、「観光地」「AIスマート化」に決定。



3 文章化

テーマを実現するために自分たちは何をするか、おとなたちには何をしてもらおうかを話し合いました。



Step 2 プレゼンテーション

ワークショップで議論した内容について発表しました。議場の厳かな雰囲気息をのむ子どもたちでしたが、各チームが自由に柔軟なアイデアを自分の言葉で発表しました!



白熱した答弁は実際の議会さながら。「としまポイントはどこかな?」など質問も続々。「様々な場所で商品の売買に使えるようにし、お金の循環を増やす」など、真剣に回答していました。Cチームのプレゼンテーションは見事優秀賞に輝き、来年3月開催の「第3回こども未来国連会議」への参加権を獲得。世界の子もたちと平和で豊かな世界について話し合います。



Cチームのアイデアを紹介!

「未来的な自然の多い観光都市、豊島区」
 かつて豊島区が消滅可能性都市とされたことから、観光地、観光客を増やしていくことを提案。自分たちができることとして、様々な人に来てもらえるようにマンガのポスターを作ってPRを行うこと、障害のある方に小学生がツアーを行うことをあげました。そして、おとなたちに対して、ごみ削減でもらえる「としまポイント」の導入、AI技術を用いた効率的な観光地の整備などを提案しました。



▲区の木ノ葉イシノが立ち並び、自然いっぱいでも誰もがハッピーな未来の豊島区

小坂拓磨さん ● 多角的な視点がいかに大事かを改めて感じました。今地球上で戦争など色々な問題が起きていますが、持続可能な社会に向けて何ができるか考えていきたいです。

師岡飛向さん ● チームのみんなとSDGsについて意見を言い合い、楽しかった。最初は緊張しましたが仲良くなったので気分がいいです。

中島信彦さん ● 障害のある方のために点字ブロックを増やしたり、AIを使って住みやすいまちにしたり、みんなで助けてあげるとい意見を出しました。みんなが住みたいと思えるまちにしたいです。

大瀧輝さん ● チーム内のアイデアの整理がうまくいったことがうれしかったです。今度のこども未来国連会議では世界のお友達とお話できるのを楽しみにしています。

大西菜々美さん ● 最後の10分間で何とかイラストを完成させました。議場で質問するなどして、終わった後とても達成感がありました。

おとな顔負けの議論を通して、仲を深めていく姿が印象的でした。3月の再会を心待ちにしています!



優秀賞おめでとう!

写真左から小坂拓磨さん、師岡飛向さん、中島信彦さん、大瀧輝さん、大西菜々美さん



SDGs アイデアコンテスト 受賞者決定!

豊島区こども未来国連会議の開催前に、アイデアコンテストを実施。約160通のアイデアの中からグランプリ賞・区長賞が選ばれ、当日会場で表彰されました。受賞者2名は、来年3月開催の「第3回こども未来国連会議」に参加予定です。



アイデアコンテストグランプリ 高原利央さん

●アイデア 「誰もが毎日おいしい給食が食べられるまち」を実現するため、「SDGs給食センター」を提案。不要になった食材を自動運転のイケアバスで給食センターに配送し、AIロボットが自動で調理。完成した給食は、食べ物が買えない、忙しくて作る時間がないなど、困っている人たちにドローンで配送するという仕組みづくりが、フードロス削減の観点から評価を得た。

「豊島区こども未来国連会議」にも参加しました!

●コメント こんなにたくさんの方がいると、前に出て話すことがなかったので、とても貴重な機会となりました。意見を出し合い共有できて良かったです。様々な意見をひとつにまとめるのが難しかったですが、話し合いながら自然、文化、国、人などジャンルごと分類していき、時間内にまとめることができました。来年のこども未来国連会議では、SDGsの課題を解決するためのアイデアをもっと出していきたいです。



アイデアコンテスト区長賞 望月颯馬さん

●アイデア 「住み続けたい未来の豊島区」をテーマに、発電スポットの設置、屋上の緑化推進などSDGsの視点から様々な提案を行った。「S...そだてよう、D...だれもが、G...げんきで、S...すめるばしょ」という言葉も考案。

「豊島区こども未来国連会議」にも参加しました!

●コメント 自分のアイデアを出してみたいと思ってSDGsアイデアコンテストに応募しました。会議ではうまく自分の意見を出すことができず、知らない人の前で話すことが難しいと感じました。次回のこども未来国連会議では、どんな人の前でも自分の意見を伝えられるようになりたいです。



区長からのメッセージ

SDGs未来都市豊島区の未来の主役は子どもたちです。その子どもたちと豊島区の未来図を描きたいというのが、私の切なる願いだったので、当日の素晴らしい発表に感銘を受けました。SDGs目標年である2030年。ちょうどその頃おとなになり、社会の主役になっている皆さんが考えてくれた未来の豊島区を実現できるよう、一緒に頑張っていきたいと思います!

教育長からのメッセージ

区立小・中学校全校で「SDGs達成の担い手育成事業」を開始して1年余。地域の皆さんに支えられながらSDGsを「自分ごと」として学んできた子どもたちは、その成果を存分に発揮してくれました。明るい未来へとつながるバトンを次世代に引き継ぐため、私たちおとなこそ、子どもたちとともに学び、行動に移す必要があります。おとな子どもと一緒にSDGs達成を目指し、一緒に輝く未来を描きましょう!

豊島区はこれからも「豊島区こども未来国連会議」の活動を「SDGs達成の担い手育成事業」と連携し、継続的に行っていきます!

12月3～9日は、「障害者週間」です やさしいつながりを感じられるまちへ



▲目白生活実習所分室「ぶらす」で座談会を開催

区では障害のある人も無い人もともに支え合うまちの実現に向けて、様々な事業を行っています。今回は、知的障害のあるお子さんをお持ちの区内在住の3名が集まり、座談会を開催。世代の異なる3名に、それぞれの生活や体験について語り合ってもらいました。

図 障害福祉課管理・政策推進グループ ☎3981-1766

(写真右から)

●塚田 恵介さん

目白福祉作業所に通う家族の会「さつき会」会長。初めての男性会長として、作業所と行政側の調整などに尽力。40代の知的障害者のお子さんを持つ。

●磯崎 たか子さん

豊島区手をつなぐ親の会会長。障害者が地域で自立して生活していくための創作や生産活動を支援するNPO法人「麦の家」理事長。50代の知的障害者のお子さんを持つ。

●木村 日和さん

豊島区障害者地域支援協議会に当事者家族として参加。私立大学キャリアセンターでキャリアカウンセラーを務める。20代の知的障害者のお子さんを持つ。

制度を活用して障害者の働く場を広げる

——木村さんのおさんは豊島区のチャレンジ雇用(※1)で経験を積んで、11月からは民間企業での仕事が決まったそうですね。

木村●チャレンジ雇用の任用期間の終わりが近づき、民間企業の就職活動をしましたが、なかなか決まらず本人はつらい思いをしたと思います。



木村さんのおさんが通所していた
就労継続支援B型作業所「いけぶくろ西の里」

涙ぐみながらも「僕、次もがんばる」と言う姿を見て、働くということが彼にとってとても大事なことなのだと感じました。最終的に彼の意思が尊重されて、働ける職場ならと、民間企業で清掃の仕事をする事に決まりました。

——働くことへの目覚めはチャレンジ雇用がきっかけですか。

木村●はい。働いてお金をいただくという目標を持ったことが彼の意識の変化として大きいと思います。仕事が決まってすぐうれしそうです。

磯崎●障害者の雇用を促進するための障害者雇用制度(※2)は、とてもよくできた制度だと思うんですよ。ところが制度はあるけれど、その制度を利用する企業が少ない。そこが一番問題ですよ。今ならジョブコーチ支援事業(※3)というものもありますし、「意思の疎通がうまくいかないのでは」「仕事の内容を理解できないのでは」などの不安があるなら、こうした制度も利用して取り組んでいただけたらと思いますね。

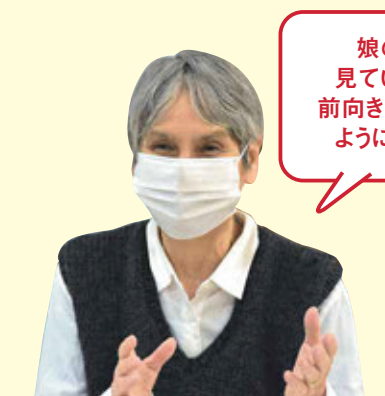
障害者との関わりから生まれる変化

塚田●私は流通関係の企業に勤めていましたが、障害者の雇用には積極的でした。印象的だったのは、障害者を受け入れた職場の社員がすごく成長することです。最初は「仕方ないな」といった気持ちでやっていたと思うのですが、それがみるみる変わっていく。人間的な豊かさを得るとい意味で恩恵を受けているのは、実は社員の方



塚田さん

障害者を
地域全体で支えるという意識に社会が変わってきましたね



磯崎さん

娘の様子を見ているうちに、前向きに考えられるようになりました

「働きたい」をサポートします 豊島区障害者就労支援事業

安心して働くことができるように、障害者の就労に関する相談や情報提供を行います。利用時間や対象者などの詳細は問い合わせください。

図 障害福祉課施設・就労支援グループ ☎3985-8330

就労支援の一例

- 就職活動支援
応募書類の作成や面接練習などを支援します。
- 就労継続支援
面談や職場訪問などを支援します。
- 企業支援
企業に対し、障害者雇用の促進などを支援します。



▲YouTube
としまなまるチャンネル
「豊島区の障害者就労支援事業」

ヘルプマーク・ヘルプカード をご存知ですか？

- ヘルプマーク…障害のある方や、義足を使用している方、内部障害の方など、外見からはわからなくても援助や配慮を必要としている方が身につけるものです。
- ヘルプカード…持ち主の情報や支援してほしい内容を書き込むことができます。ヘルプカードの提示があったら、記載されている内容にそって支援をお願いします。

障害福祉課では、ヘルプマーク・カードと一緒に持ち歩くことができるケースを作成し、配布しています。



▲YouTube
としまなまるチャンネル
「障害者サポート講座」



▲ヘルプカード



▲ヘルプマーク

IKEBUSで行く！ インクルーシブ公園ツアー

区制90周年事業として、児童発達支援施設に通う子どもを対象としたバスツアーを開催しています。障害の有無に関係なく一緒に遊べるインクルーシブ公園「としまキッズパーク」でのびのびと過ごし、子どもたちはいきいきとした顔をしていました。



イルカ
児童園の
皆さん

▲IKEBUSに
大興奮！



▲たくさんの絵本に
囲まれてわくわく

▲ミニSLに乗って遊んだよ

私だからこそできることも多いと思っています。
塚田●私たちが子育てをしていた頃は、障害者や高齢者を社会や地域で支えるという意識がうすく、家族が犠牲になって面倒を見るといった考え方が強かったように思います。でも今は違います。制度やサポートを利用する、社会や地域で支え合うというように変わってきています。当事者である私たち自身も「家族が犠牲になって」という呪縛から自由になりつつあると感じます。

やさしいつながりを感じられるまちへ

——かつては家族が犠牲になったり、障害があることを公にするのがはばかれるといった時代もあったかと思いますが。その時代の変化について、どんな感覚をお持ちでしょうか。

磯崎●娘に障害が見つかった時は、この子がどのように生活していくのかを誰にも相談できず、すごく悩みました。親族には「どうしてあんな子がいるの？」「施設に入れた方がいい」と言われたこともありました。障害者を極端に嫌がる人がいるのも事実ですけど、今では知的障害者が制作した作品がアートとして注目されたり、車椅子の方がスポーツで活躍されているのが報道されたりして、障害があるとかないとか関係ないなど少しずつ皆さん感じてくださっているのではないのでしょうか。でも健常者と同じように生活できるかといったらそうじゃない。駅のホームにエレベーターはあるけれど、すごく不便なところにあるのを見ると、もう少し配慮があってもよいのではないかと思っています。

誰もが輝くために社会や地域で支え合う

木村●私は息子が小学校のうちは、働かたくても働くことができませんでした。中学校に入って一人で通学ができるようになって、少しずつ仕事ができるようになって。今は様々なサポートが増えてきているのですが、障害が重ければそれだけ負担が多く、家族の社会参加は難しくなるのが実情ではないでしょうか。



磯崎さんが理事長をしている
「麦の家」で制作された商品

木村●そうですね。たぶん障害者に対する理解は進んできているけれど、どう接すればよいのだろう？ 障害がある人に本当に望ましいことはなんだろう？ といった戸惑いが、まだまだ多くあるのかなと思います。例えば教育の場で、障害者

と健常者の子どもたちが日常的に接する機会がある環境などが整うと、これから20年、30年先の障害者との関わり方も違ってくるのではないのでしょうか。

塚田●知的障害者の場合、見た目では障害がわかりづらく、周りから誤解されやすいといったこともありますね。息子は喘息を持っていますが、コロナ禍でも本人は咳をする時に配慮することができないので、ひと目で喘息持ちだとわかるマスクを用意しました。

磯崎●そうですね。車椅子に乗っていたり、白杖をつけていたりすればわかりますが、内部障害の場合は、例えばヘルプマークのような助けが必要であることを伝える工夫は有効だと感じます。

▲ヘルプマークをつけているのを見たら、「ちょっと助けてほしい時があります」といった感じで捉えていただき、困っているようであればぜひ声をかけてもらえたらうれしいですね。

木村●息子を育てていく中で、私自身もヘルプ信号を出す大切さを知りました。一人で抱え込むのではなく、「困っています」「助けてください」と言っているんですね。そうすると皆さん温かく手を差し伸べてくださり、そうしたやさしさに支えられてきました。障害者が安心して暮らせるまちであれば、多くの人にとってやさしいつながりのある暮らしやすいまちになるのではないのでしょうか。

困った時に
声を掛け合える
地域になって
ほしいです



木村さん

(※1)チャレンジ雇用
障害のある方を「チャレンジ就業」として各自治体で採用し、一般企業の就労につなげる事業。

(※2)障害者雇用制度
障害者雇用促進法において定められた制度。障害者の安定的な雇用を目的としている。

(※3)ジョブコーチ支援事業
障害のある方が企業で働くにあたり、企業や障害者をサポートする事業のこと。

令和5年度 学童クラブ利用申請について

- 対象…区内在住または区立小学校に在学中で、保護者の就労、疾病などにより放課後の保育を必要とする児童※保護者の就労時間などの利用条件あり。
- 実施施設…子どもスキップ22施設(各小学校区に1か所)
※詳細は2次元コード参照。
- 利用時間



	基本	午前9時前利用	延長利用
授業のある日	放課後～午後6時		午後6～7時 (平日のみ)
授業のない日	午前9時～午後6時	午前8時15分～9時	

※土曜日は午後5時まで。日曜日、祝日、12月29日～1月3日は休業。
※午前9時前利用、延長利用は要申請(条件あり)。

●利用料…基本/月額4,000円、午前9時前利用/月額1,000円、延長利用/月額1,000円※いずれも所得などによる減額・免除制度あり。午後5時以降利用する方で、間食を希望する場合は、別途月額1,000円。



- 申込方法…申請書類(各学童クラブで配布)を下記の期間までに希望の学童クラブに提出してください。
- 学童クラブ在籍者(令和4年度利用者)…12月16日(金)まで
- 新規利用希望者…1月4日(水)～19日(水)※新規利用希望者は児童と保護者との面談あり。電話で各学童クラブに要予約。
- 各学童クラブまたは児童支援グループ☎3981-1058

学童クラブに在籍者(令和4年度利用者)は電子申請ができるようになりました!



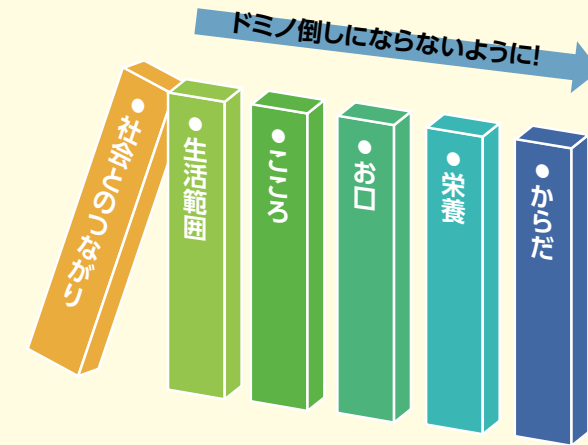
子どもスキップの過ごし方を動画で紹介しています! 詳細はとしまなまるチャンネルをご覧ください。



社会とつながって STOP! フレイル

「社会とのつながり」を失うことがフレイル(虚弱)の最初の入り口です。年齢とともに人付き合いや外出をする機会が減ることで、食事も少なくなり、筋力が衰え、噛む力が弱っていきます。フレイルを予防するために、自分に合った通いの場を見つけましょう。

出典: 東京大学 高齢社会総合研究機構「フレイル予防ハンドブック」飯島勝矢、田中友規



図高齢者福祉課介護予防・認知症対策グループ☎4566-2433、総合事業グループ☎4566-2435

“いつもの場所”で フレイル予防



▲区内2か所の介護予防センターでは毎日としまる体操を行っています



▲絞り染めの様子。区民ひろばをはじめ、地域の中で自主的に取り組んでいます

「通いの場」を運営する方を募集しています

運営費用を区が助成します。活動内容によって補助内容が異なりますので、詳細は問い合わせてください。

高齢者クラブ連合会創立60周年!

高齢者クラブに参加しませんか

高齢者が自主的に仲間づくりをすすめています。

- ・趣味や教養の向上
- ・健康づくり
- ・知識・経験を生かした地域貢献 など

現在、区内で74団体が活動し、今年は創立60周年を記念して様々な事業を展開しています。



輪投げ大会の様子▶

図当連合会☎5950-2511(火・木曜日の午前9時30分～午後4時)、高齢者福祉課管理グループ☎4566-2429

8月末の芸能まつりでは、コーラスやフラダンスなど多彩なジャンルの演目をいきいきと披露しました。



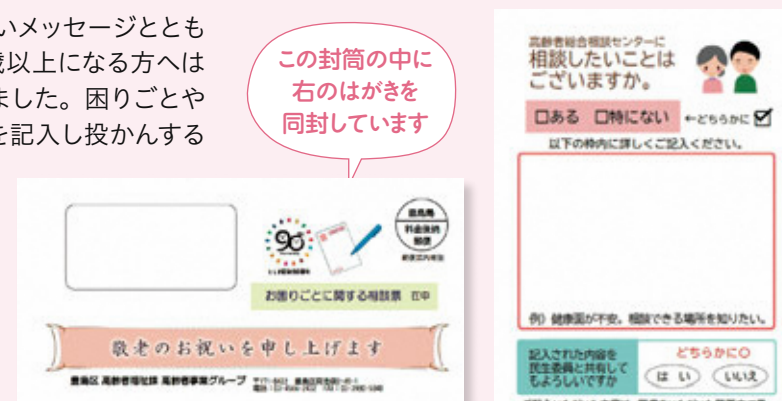
60周年記念「作品展」

12月19日(月) 午後1～7時
12月20日(火) 午前9時30分～午後7時
12月21日(水) 午前9時30分～午後1時
東京芸術劇場

◇絵画や陶芸、俳句などクラブ会員が制作した様々な作品を展示
図当日直接会場へ。

まずは第一歩、はがきで相談してみませんか?

敬老の日のお祝いメッセージとともに、今年度75歳以上になる方へはがきをお送りしました。困りごとや相談したいことを記入し投かんすると、地域の高齢者総合相談センターへ連絡できるようになっています。気軽に相談してください。



図高齢者福祉課高齢者事業グループ☎4566-2432

人生最終章でやりたいこと、 想いを形にしませんか

終活の相談、内容に応じた情報提供や関係機関を紹介します。
●日時…平日 午前9時～午後5時(年末年始を除く)
●相談方法…来所、電話、ファクス、Eメール
図豊島区終活あんしんセンター(区役所東池袋分庁舎4階)☎6863-7830、E:siensitu@a.toshima.ne.jp

終活情報登録事業
あらかじめ本人が決めた内容を登録することで、意思表示ができなくなった時や亡くなった時に、指定した相手に伝えることができます。
●対象…区内在住で65歳以上の方、そのほか必要と認める方
※認知症などの疾病により自身で手続きができない場合に限り、成年後見人(保佐人・補助人は除く)も申請できます。

「誰か」のこと じゃない。 12月4～10日は人権週間です

人権週間は、世界人権宣言の趣旨や重要性の理解を深め、人権尊重思想の普及高揚を図るために定められています。「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、相手の気持ちを考え思いやることや互いの違いを認め合う心を未来へつなげていきましょう。
図総務課総務グループ ☎3981-4451

パネル展示 12月23日(金)まで※①4階は12月25日(日)まで
①庁舎まるごとミュージアム(区役所本庁舎4・6・7階)、②男女平等推進センター
午前9時～午後5時(①6・7階は平日のみ、②は日曜日を除く)

性の多様性や障害者、高齢者、女性、子どもの権利を考えるパネル展示。区内の小・中学生が取り組んだ人権メッセージ、人権作文の優秀作品も紹介。

人権の花、人権メッセージ・人権作文
命の大切さや愛おしさを感じてもらうため、全区立小学校の児童が、小さな花を種から育てています。また、人権尊重の大切さを身につけるため、区内の小・中学生がメッセージや作文に取り組んでいます。



相談してください

●夜間人権ホットライン(東京都人権プラザ事業)
☎6722-0127

12月8日(水) 午後5～8時
◇弁護士による人権、法律相談(1名10分程度)。
図東京都人権啓発センター(相談担当)
☎6722-0124、0125

●携帯電話人権相談
☎090-7206-2772(24時間365日)
法務大臣から委嘱を受けた人権擁護委員が、法務局と連携しながら問題の解決と救済に取り組みます。匿名で相談できます。小・中学生の皆さんも気軽に相談してください。※対面での人権身の上相談は休止中。再開時は、区ホームページなどでお知らせします。
図区民相談課庶務・相談グループ☎3981-4164

住まいにお困りの方へ

豊島区居住支援協議会の 居住サポートをご利用ください

低額所得者、被災者、高齢者、障害者など住宅の確保に配慮を要する方へ賃貸住宅などの入居を支援しています。まずは、福祉総務課入居相談グループへ相談してください。内容に応じ、登録居住支援団体と連携をとりながら、支援内容を案内します。
図当グループ☎3981-2683

支援の内容

- 入居前 不動産店リストの提供、住まい探しの支援、債務保証会社・公営住宅の相談
- 入居後 見守り、安否確認、生活支援、入院手続き代行・死後整理 など



としま居住支援バンク

空き家・空き室を所有している不動産会社などと住まいの確保に困っている方をつなぐサービスです。新システムの導入によって、家賃や入居対象者を選択して物件の検索ができるようになりました。バンクの利用はこちらから



居住支援活動の心配ごとを解決するためのヒントをまとめたガイドブックです。ぜひ活用してください。

図住宅課施策推進グループ☎3981-2655



令和4年 豊島区この一年

★は区制施行90周年記念事業

1月

- Hareza 池袋で祝う2022とし「成人の日のつどい」(初の2部制開催)
- 豊島区SDGs特設ホームページ「としまSDGsアクション!」を本公開
- 豊島区基本構想審議会、後期・基本計画(案)を区長へ答申

2月

- 若年女性を支援する「すずらんスマイルプロジェクト」の専用ウェブページをオープン
- 保育園入園に関する準備から申請までの一連の手続きをオンライン化



3月

- ウクライナ応援コンサートを開催
- 長野県長野市と「集客プロモーションパートナー都市協定」を締結



長野市長と区長

4月

- 副区長を再任(引き続き2名体制)
- 「としま“まちキレイ”プロジェクト」始動

5月



- ★ 郷土資料館区制90周年企画展「昭和の暮らしと遊び」を開催
- 区民相談コーナーにウクライナ避難民のための相談窓口を設置
- 「としま子ども若者応援プロジェクト」の一環として、区とガイドドリンコ(株)が覚書を締結し区内第1号となる寄附型自動販売機を設置

企画展「昭和の暮らしと遊び」

6月

- ★ 区制施行90周年パートナーシップ事業(公募助成事業)を募集開始
- 豊島区を「児童相談所設置市」に指定する政令が閣議決定
- 「豊島区DX推進計画」を策定

7月

- 北海道中富良野町と「としまぐらし&ナカフライフ相互交流宣言」を締結
- としまみどりの防災公園(IKE・SUNPARK)に「円盤を投げる平和の青年像」を設置
- 長野県箕輪町と姉妹友好都市協定を締結
- ★ トキワ荘マンガミュージアム開館2周年記念展示「漫画少年大展望号」開催



中富良野町長と区長



箕輪町との協定締結式にて

今年周年行事をむかえた区立小学校・中学校・幼稚園

- さくら小(20周年) ● 駒込中(70周年) ● 南長崎幼稚園(50周年)

8月

- 住民票の写し・税証明など各種証明書のオンライン申請事業がスタート
- 「森の中の学校」をコンセプトにした池袋第一小学校新校舎完成
- ★ 「第48回東京大塚阿波おどり」3年ぶり開催

9月

- 「ひきこもりUX女子会 in 豊島」開催
- ★ 池袋第一小学校で「いのちの森」記念植樹を実施
- ★ 高齢者にやさしいまちづくり「フレイル予防でいきいき100歳」としてとしまる体操イベント・講演会などを実施
- ★ 「としまSDGsウィーク」を展開、「豊島区子ども未来国連会議」開催



豊島区子ども未来国連会議



池袋第一小学校で6年生が記念植樹

10月



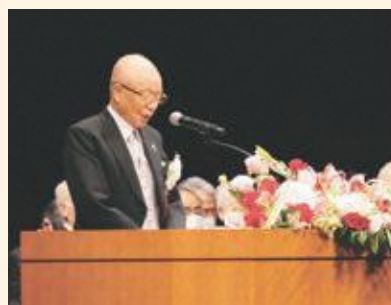
- 区制施行90周年を迎える
- ★ 郷土資料館をメイン会場に「豊島大博覧会」開催
- (株)ビックカメラと「豊かなまちづくりのためのパートナーシップ協定」を締結
- 区民ひろば椎名町移転オープン
- 池袋駅北口前公衆トイレ(ウイトピア)改修完成



完成したウイトピア

11月

- ★ 区制施行90周年記念式典、区功労者表彰式、セーフコミュニティ認証式(再々認証)、文化栄誉賞表彰式、文化庁長官基調講演を実施
- ★ 「トキワ荘通り昭和レトロ館(豊島区立昭和歴史文化記念館)」オープン
- ★ 教育委員会「SDGsフェスティバル」開催
- ★ 「平和祈念展 in 豊島～戦争を知らない子どもたちへ～」開催
- ★ トキワ荘マンガミュージアムで特別企画展「藤子不二雄のまんが道展」開催
- ★ 講演会「ダイバーシティが世界を変える～思い込みから抜け出そう～」開催



区制施行90周年記念式典



トキワ荘通り昭和レトロ館(豊島区立昭和歴史文化記念館)

12月

- ★ としまオレンジリボンフェスタ開催

新型コロナウイルスワクチン接種の豊島区における流れ

令和4年も引き続き、個別接種・集団接種の体制で区民の皆さんへの接種を実施しました。

3月 ● 小児接種開始(5～11歳)

5月 ● ゴールデンウィーク期間における集団接種を拡充し、としまセンタースクエアを毎日開設
● 4回目接種開始(60歳以上の方・基礎疾患を有する18歳以上の方など)

7月 ● 集団接種(としまセンタースクエア)の開設時間を毎日午後9時まで拡充

8月 ● 若い世代の3回目接種促進に向け、東京都と連携した臨時接種会場を開設

9月 ● 小児接種の3回目接種開始
● オミクロン株対応ワクチン接種開始

11月 ● 乳幼児接種(生後6か月～4歳)開始